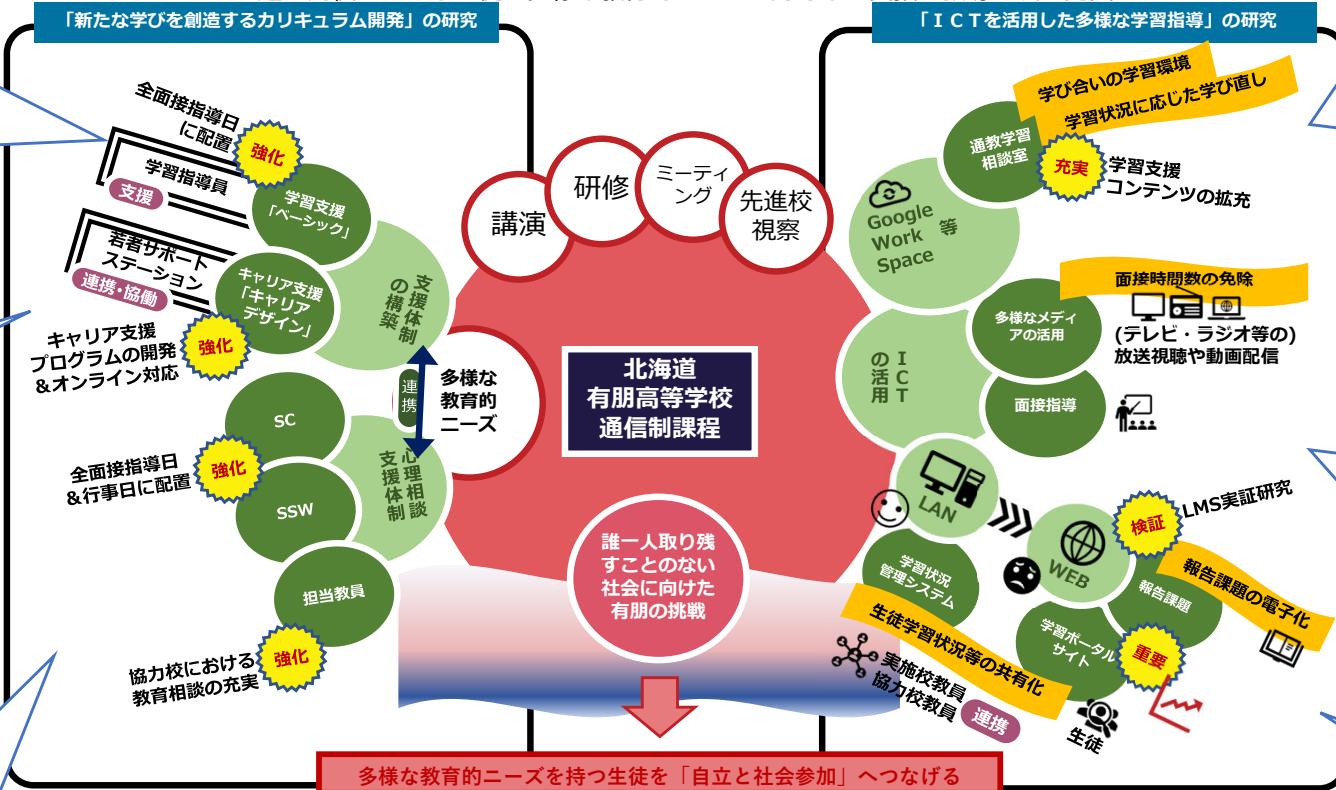


記号：●成果 ▲課題

「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

～道立高校における生徒の多様な教育的ニーズに対応した支援・指導方法の充実～



・実施校全面接指導日に学習指導員を配置し個別学習支援実施
北海道医療大学心理学科(大学生・大学院生)
R5:3名,R6:7名,R7:5名(1日あたり2名程度)
→●学び直しと居場所づくり(R7延べ605名対応)
→●再利用率60%以上
→●学習意欲向上
→●単位修得率向上

・自己理解プログラム開発
・社会理解プログラム開発
・デジタルツール開発・運用
・講話のワンダメント配信
→●進路決定率上昇
→▲講話への参加率4割
動機付けの工夫が必要

・相談時間拡充 228時間/年
・実施校の全面接指導日&行事日にかんせリングを実施(SC/SSW 3名体制)
→●チーム支援の実現(担当者間の情報交換の充実)
→●伴走型支援の実現(利用件数 前年比51%up)
→●同一生徒、複数回実施可能に! 面談継続率90%
→●情報共有充実
→●心理的安定
→登校機会up
・学習継続
→▲継続的な体制整備
→▲専任の教育相談コーディネーターの配置

・オンラインカウンセリングの実施
・カウンセリングのオンライン予約システム開発
→●協力校カウンセリング機会up
→▲協力校生徒への認知度向上
→▲協力校生徒の緊急時対応のための既往歴共有

・生徒・保護者向けポータルサイト「YUHO PORTAL」開設
学習・キャリア・教育相談等の支援ページを一元化!
・通教学習相談室「Yuho STUDY」開設
解説動画・資料配付等
→●学習意欲向上
→●単位修得率向上
→●協力校の情報格差縮小
→●孤立感の軽減
→▲低い認知度
学習支援コンテンツの拡充が必要

・オンライン学習会実施(学習支援・時数補充)
→▲低い認知度
周知機会拡充が必要
・放送視聴
視聴～報告の一連の流れをデジタルパッケージ化
→●採点業務効率化
→●学習停止8.7%減少

・先進校視察・校内研修(R5～6)
→●使用LMSの理解促進
・データ・サーバを実施校内に設置(R6)
→▲セキュリティ確保、協力校や生徒との情報共有
→▲広域分散型に対応したLMSの必要性を再認識
・報告課題の電子化試行(R7)
Manabie社「Manabie」4ヶ月、11科目、生徒モニター49名
→一部業務負担軽減
●満足度85% (自動採点システム効果的)
▲実技科目への対応情報格差への対応紙とデジタルのハイブリッド運用を検討
→▲電子化に対応した報告課題・学習コンテンツの検討
→●学習状況の見える化、自己管理郵送負担軽減
→▲スマートフォンの限界、デジタルデバイス対策

